

中丸地区 村政懇談会

日 時：平成30年7月11日（水） 午後7時から午後8時35分まで
場 所：中丸コミュニティセンター 多目的ホール1, 2
出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，企画総務部長，村民生活部長，福祉部長，産業部長，教育部長，議会事務局長） 計9名
事務局（課長，課長補佐，係長，地域づくり推進課職員3名） 計6名
自治会長（押延区，須和間区，舟石川中丸区，原子力機構長堀区，南台区，フローレスタ須和間） 計6名
参加者：押延区3名，須和間区4名，舟石川中丸区15名，原子力機構長堀区1名，南台区2名，フローレスタ須和間3名，その他63名 計102名
司会進行：原子力機構長堀区自治会長 松尾 龍人
総計123名

《次第》

開会

1. 出席者紹介（村執行部及び自治会長）
2. 地区自治会長挨拶
3. 村長挨拶及び村政の説明
4. 3に対する質疑応答
5. 地区からの事前質問に関する回答
6. 自由質問（一問一答形式）

閉会

《記録》

【2. 地区自治会長挨拶】

こんばんは。本日はお忙しいところご参加いただき感謝申し上げます。今年の村政懇談会は、去年までと大きく2点違っている。1点目は、去年まではこの村政懇談会は自治会連合会と共催で行っていた。残念ながら、昨年度自治会連合会は解散となり、今年は地区自治会と役場の共催になる。地区ごとに内容が変わっている。とりあえず、中丸地区は去年と同じイメージで実施する。他の地区の様子を見て、参考になりそうであれば、来年はやり方を変えていく。今年は高齢者が多いということで、時間を90分にした。終了は8時半を目標にしたい。

2点目は開催場所を変えた。これまでは狭い会議室だったが、今年は広いホールになり景色が違うと思う。去年までと違って新しい感覚で意見をいただけたらと思う。積極的な意見を期待している。よろしく願いしたい。

中丸地区 村政懇談会

【3. 村長挨拶及び村政の説明】

こんばんは。今年度は、石神地区、村松地区に続き、中丸地区で3か所目である。例年だと1週間に3か所ずつ開催し、2週間で6か所終わっていたが、今年度は各地区でやり方が違い、時期もずれている。今週末に舟石川地区があるが、白方地区と真崎地区はもう少し後で、それぞれ地区でやり方を考えてもらい、その地区に合ったやり方で開催している。中丸地区も場所が変わっただけで、雰囲気が違う。参加者に役場職員が多く、先日村松地区で、役場職員を動員しているのではないかと問われたが、全くそのようなことはない。職員は、私や部長が皆さんとの意見交換でどういう話をしているか知りたいという思いで参加している。皆さんからのご意見は、後日周知はするが、その場の雰囲気や皆さんの思いは、参加した者でないと分からないので自主的に来ている。そのような意識で来ており、彼らの自主的な判断なのでご理解いただきたい。

今年度がスタートし、村政自体は順調に進んでいる。西日本で大きな災害があったが、東海村は自然災害があまりなく恵まれた地域である。大きな山を抱えているわけでもなく、川はあるが、それでもある程度上流の状況を確認することで事前の備えができることは恵まれている。ただ、あれだけの集中豪雨となれば村内でも冠水するところが出てくるかもしれない。ハザードマップを作っているが、改めて集中豪雨等についても一度村民に理解を求める努力をしなければならない。あのような災害が起こっているのです、我が身のことと思って、今は少しは意識しているかもしれないが時間が経つと忘れてしまうのが人間なので、ハザードマップを中心として今後やっていきたい。

資料の説明をさせてもらおう。今日説明する内容は、一般会計予算、今年度の最重点施策、原子力政策、人口動態及び将来推計、地域づくりの5点になる。

2ページを見てもらうと、今年度の歳入歳出の円グラフがあり、これは4月10日号の広報とうかいにも載っている。ポイントは歳入の方で村税が109億円あり、全体の58%を占めている。そのような市町村はあまりない。税収は通常3割程度しかない。東海村は恵まれている。大きな税収を得て行政運営ができているということが強みである。村税の中でも固定資産税が73億円で、当然皆さんの土地と家屋も入っているが、やはり大手事業所の部分が多い。特に常陸那珂港区にある東京電力の石炭火力発電所からの税収が大きく、恩恵を受けている。ただ、村税は昨年度と比べ5億円程減っている。固定資産税が3年ごとの評価見直しで低減しており、償却資産も年次で落ちてきており、それに連動して税収も落ちている。総額189億円というのは昨年度とほぼ同じで、税収が減っているのに予算規模変わらないというのは、何かで穴埋めしなければならない。円グラフの左上に繰入金20億円とあるが、この中には財政調整基金という貯金のようなものが入っていて、それを取り崩して、税収が減った分を充てて、全体の予算規模は減らしていないというのが予算のおおよその概要である。

中丸地区 村政懇談会

歳出は民生費ということで、社会保障関係費で国・県と連動する部分もあるが、一番多くなっている。最初のトピックスは、7月10日号の広報とうかいにも載せたが、医療費無料化を今までは中学生までだったが、10月1日から村でも高校生まで延ばす。県がやったことに連動して村でも改訂をする。県は18歳まで無料化を実施すると言っているが、入院のみが対象で一番対象が少ないところ。村は外来分も対象とする。村の持ちだしは大きくなるが、そこは中学生までやっていたので、そのままスライドして年齢を18歳までにする。村は所得制限も設けず、毎月1000円程度かかる自己負担もない。完全な無料化は多分県内でも東海村くらいしかない。それは当初予算には入っていないが、10月からスタートで、実際医療費が変わってくるのは年度後半なので、予算としては来年度の予算で大きく手当する必要がある、その分は村の中で調整して来年度以降も継続する予定である。総務費は27億円で、前年度より3億円程度増えている。理由は、資料の中にA4横書きのポンチ絵があるが、福島第一原発事故由来の除去土壌、除染廃棄物が村内6か所の公園等にフレコンバッグに入れたままビニールシートを被せて保管されている。この6ヶ所の除去土壌を1ヶ所にまとめて、原子力機構の敷地内に移動する。これに係る費用が約3億7千万円。この事業は環境省のお金を使って実施する。環境省からお金をもらうので、歳入の中の国庫支出金でもらっておいて、歳出の方で総務費の中の委託料で行うので、総務費が増えている大きな原因となっている。すでに原子力機構とは契約は済んでいて、原子力機構の方で業者に発注して作業する。今年度中に移設し、移設後もモニタリングを行い、状況を確認する。環境省としては、除染廃棄物等の移設をどのように行ったらよいかというモデルとして、これをベースに色々な指針を作ることになっている。この作業が全国的な問題に対する指針づくりにも役に立つこととなる。

3ページ目の最重点施策についてであるが、病児病後児保育は、ずっと進めていて、東海病院の隣接地に施設を整備する。今年度中にできあがり、運用するのは来年度5月頃を目途に進めている。なかなか待機児童も完全に解消できていないが、民間の保育園で定員を拡大する予定があるのでその整備を待っている状況。村としても何かできないか検討している。一方でこの施設は病気になった子どもを抱えてどうしても仕事を休めない方の施設であり、非常にニーズは高いということで今進めている。

産業振興については、新たに村の中に産業部を作った。産業政策課と農業政策課で商工観光振興と農業振興を専門に担当する部署を作った。産業振興については、従来型のものもそうだが、新たなものを見つける取り組みを強化していく。

国体は、来年が本番となる。今年度がプレ大会で、9月に社会人の日本選手権大会が東海高校と阿漕ヶ浦公園を使って行われる。今そのための準備を進めている。ホッケー場自体は完成したが、阿漕ヶ浦は公園の方の整備がまだ残っており、その準備も進めている。ハード面や村の体制は整ってきているが、あとは村全体で来村者をおもてなしするところはまだ足りないので、今その取り組みを始めている。何とか機運を高めて、来年の国体を迎えたい。

中丸地区 村政懇談会

(仮称)歴史と未来の交流館については、7月10日号に記事を書いているが、昨年12月に基本設計が終わっているが、色々意見をもらったので、再考して、平面計画を見直した。かなり効率的な形で配置も変え、一方で交流機能の方、歴史資料の展示・収蔵に必要な部分は確保するが、それ以外の交流の部分がまだまだ足りないので、要素をつけ加えて見直しをした。そのまま今年度実施設計に移り、来年と再来年の2ヶ年で工事をして、33年からオープンする予定である。概算事業費も16億円で多いのではないかと意見もあったが、かなり精査をしたうえで、見直しでは全体的な面積を減らしているのので、いろんな要素があってそのような額になっているが、これ以上増えないようにしてやっていきたい。単に行政として作りたいというのではなく、当然子ども達や幅広い世代にもう一度東海村の歴史や郷土をしっかりと認識してもらおうとともに、それだけではなく、普段人が集える場所にして、賑わいを持てるような施設にしたいのでご理解いただきたい。今後もまた進捗状況は逐次情報提供しながら進めていきたい。

安心・安全体制については、資料には「放射線低減対策特別緊急事業」と予算上の正式な名称を入れているが、先ほどのフレコンバッグの移動の話である。もう1つは、基幹避難所となるコミセンの機能強化である。中丸コミセンはそうでもないが、駐車場が足りないところがあり、そこは土地を買い借りるなりして確保する。バスも入らなければならないので、入らないところはアクセスを考えていく。これが機能強化として考えている。その他には、昨年度コミセンの外装工事が終わって、内装工事が残っており、6館あるので2館ずつ3年かけて実施する。中丸コミセンは今年設計で工事は来年以降になる。今年は石神コミセンと村松コミセンの工事を行う。改修工事を行う際は部屋が使えないところ出てくると思うが、ご協力をお願いしたい。道路については、主だった道路の補修のほか、継ぎ接ぎだらけになっている道路はきれいになったと思うが、まだ生活道路は結構傷んでいるところがあり、村内かなりの数がある。一気にできないので、ある程度の予算の幅の中で優先順位をつけて進めたい。総合体育館も天井の耐震化、LED化をやり、久慈川のソフトボール場の再整備も行う。

4ページで、東海第二発電所の関係で、原子力規制委員会の新規制基準による審査書案が出たとの報道があるが、今後パブリックコメントもあって、最終的に設置変更許可がどうなるか、その他にも工事計画や運転上の認可があるため、審査がいくつか残っているので、その動向は注視したいと思っている。避難計画については、今月16日に避難訓練を実施する。今年の訓練は村を出るまでだったが、今年は取手市の藤代南中学校へ避難するという想定で行う。新安全協定については、3月に東海村と周辺5市の計6市村と原電とで新しい安全協定を結んだ。実質的な事前了解が付与されたというもので、全国でも例がない新しい取り決めである。それ以外に研究開発の方で村と大洗町、青森県六ヶ所村、岡山県鏡野町が、主に原子力機構の研究施設を持っているということで、その4自治体で色んな原子力の課題があるのでそれを解決するためには、研究開発を進めていくべきで、国に対する要望等をやっていくというこ

中丸地区 村政懇談会

とで、さっそく今月4日に4自治体で揃って国に要望したところである。

5 ページについて、本村の人口はほぼ横ばい。昨年は、出生数は337ということ
で350を切ってしまった。非常に危機感を持っている。昨年はたまたま転入者が多
かったので、トータルとしては人口は維持できているが、こうなると年代別にはかな
り様変わりするので、東海村も間違いなく数年後は人口が減っていく。その予想が資
料の一番下の折れ線グラフである。一番上が平成25年当時の社人研の予想で、真ん
中が村が人口ビジョンとして掲げている数値で、一番下が直近の3月に社人研が推計
した人口で、これだけ下がっていく。年代別に推移を見ていくと、若い人がいなく、
子どもが生まれないので、どんどん減っていくという推計になっており、非常に厳し
い将来が待っていることは認識しなければならない。

最後に6 ページは、村全体の人口としてはほぼ横ばいで、将来的には減っていても、
ここ5年くらいは大丈夫だと思われがちだが、村の中でも地域ごとに状況が様々であ
る。村全体でやる施策は必要だが、一方で地域に限定したような形で取り組みをして
いけないといけない。未来ビジョンとは計画づくりではなく、地域の将来を話し合う
ことをしませんか、という投げかけである。話し合いが足りていないと思う。地域の
皆さんも今やれていることは来年、再来年もできそうだ、と考え、とりあえずやる人
についてもみつきりそうだと考える。そうすると、毎年毎年1年ごとにやっていくと、
なんとかやっていけるような気がするが、行き詰ることは目に見えているので、そう
なる前に少し先を見据えて、対策のためにやるのではなく、この地域をこんな地域に
して残していきたいねと、明るい未来を見られるような発想で話をしていこうという
もの。今年度、モデル地域として亀下区と緑ヶ丘区に話をしている。まだまだ手探り
状態である。今後緑ヶ丘区に入って行って、皆さんとどんなことをやってこうと決め
ていくのが私も楽しみにしている。しっかり意見交換しながら、他の地域にも参考に
なるような取り組みにしていきたい。

【4. 3に対する質疑応答】

押延区住民：村長の話聞いて、将来安心だと感じてはいるが、予算の歳入の件で繰
入金で20億円を入れたと言ったが、繰入金の保有はどのくらい残っているのか、将
来このまま税収減っていったら、どこまで持つのか。対策はどういうものを考えてい
るか。もう1つ、地域づくりについて私は非常に良い提案だと思うが、提案だけでは
なくて具体的に進めてほしい。自治会長が連合会を解散したと言ったが、なぜ解散し
たのか。住民にその告知がない。どちらに責任があるというわけではないが、もとも
とは役場が自治会連合会にコミセンを管理してもらうため、自治会連合会は一般社団
法人格を取得したが、議会です承を得られず、白紙になってしまった。法人格を取る
のに費用もかかったがその分捨てた。解散したというのは全くなくなったのか。私が
言いたいのは、単位自治会と地区自治会と連合会とあったその流れはどんな目的をも
って作ったのか。この地域づくりを始めるとき、全体の体制としてどういう形でいく

中丸地区 村政懇談会

か。未来に向けて考えて行くことは非常にいいことだが、現実は何とか今年はぎりぎり会長が決まったとか、すぐ手詰まりになってしまう。そのような中で今までのことを総括して何が悪かったのか、何が課題としてあったのか、その課題をこういった中でどうやって反映しながら皆の知恵を借りて一緒にやっていくか。地域づくりには賛成している。具体的に真剣に進めることが大事である。

村長：繰入金は8億円程の財政調整基金を使っている。財政調整基金は60億円ほど残っており、毎年使えば減ってしまうが、当初予算は見込みで入れており、昨年度も当初予算で約6億円弱入れておいて、最終的に取り崩したのは3億円程度で済んだ。執行段階で切り詰めた。その前年の決算で出た剰余金を積み立てているので、取り崩しはそれだけあるが、積み立てもし、実質減っているのは1～2億円程度。今回は8億円入れたが、去年の決算が出たので積めるお金もある。実質どれほど使うかというところ、無駄を省き、入札で落ちた予算は使わず取っておくなどするので、それほど急激に悪化するわけではない。ただ、限度はあるので、新しい歳入確保対策は考えなければならぬ。大きなものはないが、このご時世、企業を呼んで来て税を上げるなどは無理なので、地道なものとして新しい産業育成をしなければならない。一方では役場として広告として使えるものは使う。いろんな施設にネーミングライツを付けたり県はエレベーター内を活用して広告費を取ったりしている。住民の方から公共施設に広告がついていいのかという意見はあると思うが、一つの歳入確保にはありうらと思う。色々な歳入確保をしながら、税収増となるような取り組みを行っていきたい。

地域づくりについては、一般社団法人東海村自治会連合会については途中で法人格を持たない任意団体となった。自治推進課の中にあつたときにはそこが事務局を担っていたが、そこから離れて自立して独立したということで、役場も連合会と距離を置いてしまい、そこでうまく意思疎通できなくなった。連合会は連合会として役割があつたが、私が今やっているのは単位自治会レベルの話。村全体のことを考えた連合会に代わる自治会長の連絡会は必要だと思っている。村全体を統一して何かやるというよりは、単位自治会をきちんと運営できるようにすること。補助金を交付金化して使いやすくなったが、そもそも担い手がいないとか、事業が成立しないとか、その辺をどうするか。緑ヶ丘の人達と話をしたが、緑ヶ丘区は高齢化が進んでいて、何をやろうとしてもやれる人がいないとのこと。そうすると外から人を呼んで来てその人にやってもらうなど、住民の努力だけでは難しいレベルにある。どういう人を呼んでくるかも含め、地域の方と話し合いをして具体的なものを出していきたい。

押延区住民：以前、執行部からまちづくり協議会の提案があつた。それもどういう状況かその総括もないまま、またこういうものが出てくる。提案はいいが、提案したら総括しないと、よりよいやり方が出てこないと思うので、これからは自治会と密に連絡をとってやっていただきたい。よろしくお願ひしたい。

中丸地区 村政懇談会

【6. 自由質問（一問一答形式）】

緑ヶ丘区住民：今年の秋に東海病院の医者の変動があると聞いているが、人的能力は横ばいか増えるのか減るのか見通しを聞きたい。

福祉部長：東海病院は地域医療振興協会で指定管理のもとに運営しており、医師は地域医療振興協会から派遣ということで要望している。

緑ヶ丘区住民：人的能力が今まで通りなのか、増える予想があるか、減る予想かを聞きたい。配置換えの責任は他にあるのは分っているが、村が把握している数値的な状況を知りたい。仮に医師が15人いたとすると、変動で15人体制のままか、減るのか増えるのかということである。

福祉部長：減った分についてはすぐ元に戻るかは今のところ難しいが、協会に要望していきたい。

緑ヶ丘区住民：できるだけ今の体制を維持するようお願いしたい。

村長：これは常勤医師のこと。常勤医師が途中で抜けると補充が難しいが、指定管理でお願いしているのであり、補充するよう地域医療振興協会へ言うつもりである。もし、補充が無理なら非常勤医師でも何でも週1回でも、診察の穴が開かないようにやってもらわないと困る。

舟石川中丸区住民：駅東は清算業務で閲覧が終わったが、その中で区画整理課は清算金の金額が多い人には説明会を開いて、苦情があるから少ない人は文書でもってやるようになった。縦覧に行くと、そこには業者しかおらず村職員はいなかった。大きな問題だと思うのは、村が清算金を大なり小なり取るならば、金額が大きい人には説明会を開き、小さい人には文句言われるから説明会を開かず文書で終わりにしてしまうことで、村はどのような考えもっているのか聞きたい。

区画整理課長：区画整理事業の終結に伴う清算金については、縦覧期間を2週間設けて、ご説明してきたが、不十分であったと感じている。今後についてはご理解いただくために再度ご説明する場を設けたいのでよろしくお願いしたい。

舟石川中丸区住民：清算金については全体の説明会をやっても個人個人で全然違う。負担金について30数年間も何の報告もなく、今の時期になって突如金額がこうだから払ってくださいと言われても関係住民は納得しないと思う。払ってもらうのであれば、業者任せでなく、それ相応に村職員がきちんと説明しないと納得しない。その点を区画整理課はどう考えているか。

区画整理課長：説明が不十分だったと思うので個別にご説明したい。

舟石川中丸区住民：病院の先生の話が出たが、私の主治医が辞めると言っている。開業するのかと聞いたが、辞めるの一点張り。村として医者を確保する意識が他の地域と比べて低いのかと思うがどうか。区画整理の清算金の話で駅東で30年前の話だったが、私が若い頃に良い話だということですからずっと今までやってきて、この歳で清算金

中丸地区 村政懇談会

の話が突然湧いてきたので、役場に行って話を聞いてきたが、今の生活では清算金を出すのは大変。利子の安い月賦で長くするとかもう少し柔らかくできないものか。

村長：主治医の話は医師個人の考えで、自分がお金をもらっている組織を辞めたいという話で開業か他の病院か分からないが個人の自由意志になる。村は直接医師は雇っておらず、協会に病院の運営全体をお願いしており、常勤の医師は何人と決めているのできちんとやってもらわないと契約通りにならない。今医師はあちこちで不足していて取り合いになっている。今の病院への不満があって辞めてしまうのかもしれないので、そこは医師が継続して勤務できるように協会にはフォローをしてもらいたい。仮にそうになったら、ある程度期間をおいてその間にきちんと別の医師を手当てするなどして、患者にとっては主治医が変わり不安がないように、最大限配慮してもらおう。期間があまりないが改めて申し伝えたい。清算金の件は、去年駅西第二でやって色々意見が出ていて、区画整理課でも個別に対応はしている。生活相談的なところまでは難しいが、よく話を聞いてどういう対応ができるか、村民にとっても大きな話なので、きちんと役場職員も受け止めて丁寧に対応するようにする。

舟石川中丸住民：新しい村政懇談会で、会場も変わり、新しい試みがあると思うが、1つ残念なことがある。昨年参加したときには前年の質問への回答があった。昨年度質問したので、その回答を聞くことを楽しみにしていたが、今年はその回答がなくなっており、今年の自治会からの事前質問への回答も「検討します」だけであり、結局のところ提案をお互いしているだけで、どういうふうにして実行していくのか見えないところがある。昨年質問したのは学童のことで、2人目が中丸学童に入るとき、昨年は人数が多くて、きょうだいでばらばらになることがあると言われた。今年は大丈夫だが、次はどうか分からなく心配で何とかならないかと質問した。待機児童、保育園への対策は進んでいるが、同じように小学校でも共働きの人は問題に思っている。ぜひ回答と対策をお願いしたい。

福祉部長：現在、公立の学童クラブではきょうだいは同じ学童に入所できている状況である。これからもそのようにやっていければと考えている。

地域づくり推進課長：今回は地区の自治会長と話をしながら村政懇談会の内容を決めてた。昨年の回答は3回に分けて追跡調査をし、村公式ホームページに掲載しているので確認してほしい。

舟石川中丸区住民：学童の話も載っているということでもいいか。

村長：基本的には村政懇談会で出たものは追っていくようにしている。全ての質問が網羅されているかは全ては確認していないが、どこかの段階で「改善します」等とホームページに載っているはず。

押延区住民：ホームページは見ているが、問題は「検討します」で終わっていること。その後どうなったかが分からない。その後のフォローが大事。何のためにこうやって意見を言っているのか。言い合いだけでは時間の無駄である。もう1つ、原子力政策

中丸地区 村政懇談会

についてだが、村でも広域避難計画で訓練をやっている色々大変だと思う。いつ頃までに計画を策定する予定か。東海第二原発の当事者がいて、色々大変なことがあると思うが、どういうスケジュールでやっているのか。訓練は非常に良いこと。この間、テレビで要支援者は避難ではなくて、施設にとどまってもらって、県からのお金を使って施設内で放射線対策をやっていくとのことだが、それに関して村長は村の複数の施設に要望していくのか聞きたい。

村長：村政懇談会で出た意見は、改めて部長に各課がどういう回答をしているか、それがどこまでいって、どういう課題が残っているかが具体的にできるように、表記の仕方を工夫したい。原子力政策については、計画の策定の1つの目途としては年度末頃を頭に入れているがまだ正式ではない。昨年訓練をやってみて色々な課題があって見直しをし、訓練は評価もしてもらっているのだから、色んなところから意見をもらって見ていきたい。拙速にはしたくない。他が作っているから等ではなく、きちんと住民に理解してもらえそうな計画になることが理想。東海村だからこそ慎重にやるべきだと思っている。県にも新たな課題をぶつけて回答を待っており、国にも言っていかなければならないので、スケジュールありきではなく、随時状況を見て判断したい。

舟石川中丸区住民：先日、中丸小学校に子どもが入学して学校を拝見した。新しくとても良いが、エアコンがない。涼しい対策をしているとのことで、風通しは良いのかもしれないが、今年も熱中症で何人も運ばれているのが現実。実際、湿度等をきちんと計測しているのか。また今後の導入について聞きたい。別件で水道の民営化法案が国で通った。村は値上げで対応しているが、今後水道事業の民営化をするつもりはあるか。

教育部長：ご指摘のとおり、私も授業参観に参加して、6月の下旬の状態を体験し、暑いと感じた。子ども達の勉強にも差し障りがあるのかなと感じた。できるだけ窓を開けるようお願いしたが、風が強いことが多く、ほこりが入ったり、カーテンがたなびいたり、掲示物が落ちそうになったり授業に差し障りがあるような不具合もでていた。去年から研究しているが、暑いときに実際現場に行くと、どこが暑いのか、場所によっては風通りが良いところもあるか、悪いところもあるかなど、研究していく途中なので、もう少し時間をいただきご報告したいと思う。

村長：エアコンは必要だとは思っているが、費用もかかる。個人的な意見だが、村の新しい小学校はオープンスペースなので、エアコンの効率をあげるためには間仕切りをきちんとした方が良い。オープンなところは非常に良いが、壁を作ってしまうと冷房効率は上がるが学習環境としては悪くなる。他の学校とは違って良い学校を作ったが、後から何かやろうとすると課題が多い。そこは検討が必要。導入についても、購入が良いかリースが良いかは比較検討が必要。もう少し検討させてほしい。水道については、取水場を改修したり導水管を整備して、かなり費用がかかってくるので今回値上げしたが、水道事業そのものをいきなり民営化は考えていない。職員も浄水場の

中丸地区 村政懇談会

管理をするにはある程度電気などの専門知識が不可欠であり、いつまでもその職員を配置できない。運転管理の一部を委託しているところもあるので、最終的にどうするかはまだまだ判断できない。民営化の前に広域化の方がなじむ可能性がある。下水道を企業会計に移行すると言われているので、今、上水道は企業会計、下水道は特別会計でそれぞれ別々の会計処理をやっているが一緒になっていく。今すぐに民営化はないが将来的には考えたい。回答が漏れたが、施設の陽圧化装置については、村内のいくつかの社会福祉施設はなっている。一部なっていないところもあるが、財源的には面倒を見ているので、いざというときのために整備してみるのはいかがでしょうかと声はかけたい

緑ヶ丘区住民：要望になると思うが、駅西の開発が進められており、すでに整備が済んだところはきれいになったとは思っているが利用しやすくなったとは思っていない。駅東の送迎車の問題提起があったが、駅西でも同じことが起こると考えている。東海駅にはギャラリーがあるが、駐車場がないなど問題があり使いづらいと言われている。執行部の耳にも入っていると思うが一向に対策が形として見えてこない。これから開発する部分もあると思うが、使う人の立場に立って考えてほしい。

村長：ギャラリーへの搬入のことかと思う。一時的に駐車するスペースがない。以前は駅西はロータリーの中に一般駐車場があったが、タクシープールにして別の場所に移動したので、また遠くなってしまった。一時的な搬入等の時にどうするかは、邪魔にならないようにやるしかない。駅の周辺に公共の土地を村が確保しなかったというのが最大の欠点で、駅東も駅に近いところにあった保留地を売ってしまったので土地を持っていない。今駐輪場もあふれていて、変えたいと思っている。事前質問で検討すると言ったが、今すぐこれと言えないが、どこか敷地を確保しないと無理がある。しかし、民地なので駅周辺の土地を売ってもらうのは難しい。月極め駐車場で事業として回っている箇所もあり、どれだけご理解いただいて公共用の駐車場として使える土地を確保できるか、物理的な条件が整わないとできない。できないときに代替えとして何かあるかということ、考えなければならない。駅西は落ち着いてきたが、この後駅東は中央地区の区画整理をやっている。どんどん人に住んでもらうために整備しているので、もっと人が住むと、今より駅の利用者がさらに増えると思う。何ができるのか時間もないが早急に検討しなければならないと思う。危機感を持つての「検討」である。

===地域との交流研修について一言===

企画総務部長：今年中丸地区に若手職員の地域交流研修ということで人事課から3名派遣している。わいわいまつりの運営スタッフとして準備から終了まで1年の活動を通じて皆さんと連携協力していく。3名参加させていただくので紹介したい。福祉総

中丸地区 村政懇談会

務課の石川佳史，住民課の深谷有里，下水道課の常井那津美。お手柔らかにお願いしたい。

===自由質問再開===

舟石川中丸住民：産業プラザを買ったのは良いが，冬場になるとカラスが500～600羽来て，屋上はカラスの糞ばかりだと思う。その対策は村ではどう考えているのか。

村長：屋上の利用が何もできていないのは事実。そんなにカラスが来ていることは知らなかった。よくムクドリなどは被害が出ると聞いているので，木に止まらないように木を切るなどがあるが，カラスの場合は追い払う程度の対応しかない。ごみを目当てに来ているのかと思うが，比較的村はごみの収集は管理されている。あの場所はイオンさんがあってカラスは居心地が良いのかもしれないが，後で確認したい。どんな対策がとれるか今答えられないが，住民の人も迷惑しているとのことで，屋上もあのまま使わないのであれば閉鎖とか，入りこまないようにするとか，対策は急を要していると思うので検討したい。

押延区住民：「検討します」，「調査します」と言う割に，なかなか対策が取られていない。先週同じ住民から，前から都市整備で排水がだめだから何とかしてくれと言われ，役場に写真付きで出したがはっきりしないので，やむなくもう一度先週金曜日にメールを出したが，返事がなく，届いているかも分からない。毎日メールを見ているが，これはおかしいのではないか。もう1つは，素晴らしいことがあった。南台で5月5日に火災があった。独居老人の火の不始末があったのかもしれないが原因不明だった。それを契機に自治会で保険を考えていると聞き，非常に大事なことだと思った。南台の火災の時，消防署員がホースの位置が分からなくて，遠いところから持ってきたため，しばらく消火に時間がかかったということがあった。それなら押延でも，自分の家の近くに消火栓があったが最近見えないということで，役場に調べてほしいと言ったら，昨日の23時にメールをもらい，地図付きで回答してもらった。同じ村でもこんなに違うのかと思った。同じ押延の中でも消火栓の位置を皆さんに知ってもらって，中丸地区の皆さんにもお知らせして共通の問題としていくことが非常に重要かと強く思う。村としてはどう考えているか。

村長：防災原子力対策課の対応の方はしっかりしていて，都市整備課はできていなかったのは申し訳ない。職員の中で意識を徹底して，すぐ回答できないものについても返信をするようにしたい。無視しているわけではないと思うが，結果的に反応がないというのは住民からすると無視されていると思ってしまう。改めて職員にきちんと住民からの要望に対してきちんと反応するように言っておく。申し訳ない。

押延区住民：南台の火災の対応について，よろしければお話をお願いしたい。

中丸地区 村政懇談会

南台区住民：今日は村政懇談会であり、一般の方が村の幹部の方と話すことが前提だが、皆さんにお知らせしたいと思っていた。資料はまとめてあって、役場の関係部署には送った。今色々分かったことは、会社を辞めて年金生活になって、自宅に火災保険を付保していない人が多いということである。だんだん自治会を離れていって、地域と疎遠になって、結果的にもらい火により被害を受けるようなことになる。そのときには自治会員でもそうでなくても助けなくてはならない。住民にはそういう宿命がある。今日は役場の若い方も来ている。そのような活動の中で身に染みた。運命共同体としてこれからは色々な取り組みをしなければならないと思った。協力をお願いしたい。

須和間区住民：南台の消火の問題で、消防の職員は、消火が終わると、他の火事等の対応のために戻らないとならない。残った火の後始末、残がい、灰かきをやるのは、南台区、須和間区、緑ヶ丘区の3つの地区の消防団員計10名がやることになっている。ところが須和間区は7人出ているが、南台区と緑ヶ丘区からちゃんと出てこなかった。やることはきちんとやってほしい。皆が連携して一緒に協力してやらなければならないと思う。よろしくお願いしたい。

緑ヶ丘区住民：消防団員が緑ヶ丘区の中にいるとのことは初めて聞いた。後日自治会の中で探す。

緑ヶ丘区住民：我々がやっている消防組織は、消防団とは別物であり、その活動内容も自治会の中を対象としている。自治会の組織図を見ると、緑ヶ丘区内でクローズしている。安全サポーターとして消火隊、救護班等がある。我々の中で消防隊なるものはそれだけだと思っている。

副村長：先ほどの話は消防分団のことだと思う。中丸地区は第2分団がここを担当している。第2分団は、船場区と須和間区と押延区の3つから分団員を募って組織している。南台区と緑ヶ丘区には団員を出してほしいと言っていなかったと思う。消防分団は南台区、緑ヶ丘区も、自分達の管理している地区としてパトロール等を実施してきたかと思う。なかなか分団員のなり手がいないということで広く求めていきたい。

押延区住民：今の話はこれから自治会で何ができるかという範疇の1つ。できることをやる。消防団員だから、全て火事があった場合出ていかなければならないという義務はない。いなかったりもする。南台区の例に鑑みて、自分達は自治会員でどういう手助けができるかをできる範囲で話していけば良いと思う。

以上